

# 清流ニュース

発行所

清流寺  
清流ニュース編集室

<http://seiryuji.jp.org/>

令和7年度総祈願

本年度教化誓願達成・学徒・教務員増加  
日堯上人五ヶ年報恩御奉公・御七回忌前年の年  
寺内・境内整備ご有志継続・一口奉納御奉公推進  
御利益談を語る信徒の育成・御講願主・御会式参詣者増加  
お助行・御法門聴聞励行・御奉公内容充実・教講一同ご利益感得

三月の御総講日

一日 十時 御修行日

七日 十時 バースデー総講

十三日 十時 高祖御命日

十七日 十時 開導御命日

廿五日 十時 門祖御命日

於 清流寺

十二日 十時 高祖御逮夜

十六日 十時 開導御逮夜

廿四日 十時 門祖御逮夜

廿日 十時 歡尊御命日  
晨尊御逮夜

於 羽村別院

会議

一日 御総講後 役中会議

廿日 午後一時 参事会

他寺院参詣

九日 小松川・清秀寺団参  
当山住職奉修

恒例行事

春季彼岸会総回向

二十日 清流寺

廿四日 羽村別院

本月から宗風十項目を一つずつ見ていくことになり、本月は「善聴」がテーマです。「善」とは「正しく・親しく」という意味になります。御法門の際、「聴聞」という言葉をよく耳にいたしますが、「聴」は意識的に耳を傾ける事、「聞」は無意識に自然と耳に入ってくる状態を指します。

## 御教歌

### 法門はきくたびごとに肝心の

### 所をきくをきくといふなり

(百座法門一)

住職 長谷川清泊

を学ぼうとしても、すぐに壁に突き当たります。それでも闇雲に動こうとしても、頼みとなるものがなければ、暗い迷いの道をいつまでも彷徨う結果となってしまいます。

御教歌中にも「肝心」とあります。五臓六腑の中、肝臓や心臓というのは、一度機能が止まってしまったら、取り返しのつかないほど、大事な臓器です。転じて、物事の中で、その核となり得るもの、それがなければ成立しない物事を「肝心」といいます。その御法門の中で、何が

「これだ」というものを掴む。それが出来る人であるならば「煩惱即菩提」、凡夫でありながら仏の境涯に達することが出来る、尊い人となるのです。

堅固な信心を作り上げるのです。ですから、心ここにあらざ、という状態で毎日の御法門を聞き流してはいけません。なかなかご利益が出ない、と嘆く人があるならば、その「聞き方」をまず改良してみる事が大事です。

「正しく聴く・親しく聴く」という「善聴」の姿勢を身に付けていきたいものです。人はその人生の中で多くのことを学び、そしてその積み重ねで成長をしていきます。学び、というものは、独学でなかなか成し得るものではないです。実際は、誰かの書いた参考書や教科書を見、直接、人から教えを受けて、自分自身の糧としていく。文字通り、見聞を広めて成長をします。

この教えをいただくことで、悩み解決への道が開かれる。ご利益の道が開かれる。目の前に、そのような有難いものが示されているならば、今の迷い、つまり、自分考え・我というものを排し、素直な心を起こしていただくのが結構。これが御法門の大きな存在意義なのです。

肝心要となつていくか、どの教えをいただければ、自他の共々の御利益に繋がっていくのだろうか、このことを心がけながら、御法門を聴聞する事が、ご信者の勤めなのです。と、お示しなす。

迷いを起こし、壁に当たらず、決断も出来ず、ただ彷徨う、そんな毎日の中、その解決のために、仏さまの教え、御法門を欠かさず聴聞させていただくのです。苦しいときに聴聞する御法門は、不思議と我が身に染み付いて離れません。その時に起こした信心、そのようなことの積み重ねが、

「常に法門を重ね聞き、つづけて信行口唱をつとむれば、今生にして厚き人と成て、所願成就せずといふことなし」(日々二紙一座法門 扇全六巻四二三頁)

(結句)

宗風の項目も、考えなしに羅列されているわけではありません。ご信心は「善聴」、まず教えをしつかり聴くことから始まります。

要点を掴む信者、自分考えを交えない信者、すぐ教えを実行に移すことの出来る信者、これらの要素が善聴の中に含まれるのだ、という事を弁え、説かれた教えに素直正直に、毎日の信行ご奉公がさせていただけると、そのようなご信者とな

何にも頼らず、一から物

ぼーっと聞いている、教えてもらったことが、すぐさま右から左に抜けるだけの「いるだけ信者」というのでは、なかなかご利益に結びつく事は叶いません。

最初は何もわからない、一つまた一つといただいで

そのように中から、教えを

それらの中から、毎日の信行ご奉公がさせていただけると、そのようなご信者とな